

令和2年度「清流の国ぎふ」づくり
自然共生工法写真コンテスト

応募作品
No. 1
）
No.14

主催 岐阜県自然共生工法研究会
共催 岐阜県



①



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	岩舟川の春景色
撮影場所	岐阜市中川原5丁目（岩舟川）
撮影日	令和2年4月4日
応募者コメント	岩舟川は、上流に灌漑用貯水池として明治時代に整備された松尾池と岩舟緑地があり山々に囲まれた静かな雰囲気のあるところで四季を通して自然とふれあえるスポットです。平成24年頃に砂防河川改修工事（護床工）が施工され、自然と調和したものになっています。
<審査委員とりまとめコメント> 蛇行した低水路が固定された河床は、自然石が使われていても人工感が強く、生物の寄りつきがたい印象を与えていますが、桜と菜の花に暖色系の河床は春の日差しの暖かさを感じさせ、青空と相まって見栄えのする写真となっています。	

②

清掃作業中



清掃後



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	自然と共存する水路
撮影場所	岐阜県下呂市萩原町上村地内（一関谷支流）
撮影日	令和2年8月21日
応募者コメント	最近の水路は三面張り水路が多いですが、地元の水路は敷張りがコンクリートではなく、自然の張石で出来ていて魚類の生息や昆虫(蛭)の生息が確認できる場所です。毎月一回の水路掃除を区民で清掃をして自然環境を守り続けています。
<審査委員とりまとめコメント> 農業用水の供給源として、毎月1回の清掃作業という地元の人々の不断の努力によって灌漑機能と清流が保たれてきた渓流の写真です。水の流れは全体として直線的で「自然の張石」の表現も曖昧ですが、河床に配置された粗石群によって多様で自然な様相を見せています。	

③



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	ホタル飛び交う伊自良川
撮影場所	岐阜市安食地内 一級河川伊自良川 井延橋下流
撮影日	令和2年6月8日
応募者コメント	平成9年に河川法が改正され、河川整備にあたり『治水』『利水』『河川環境』の3つの柱への配慮が主軸に置かれた。その後、各地で河川環境に配慮した川づくりに取り組む中、伊自良川の河川改修においても、河川環境に配慮した川づくりが取り組まれた。当該箇所は、河川法が改正された直後に設計・施工されたエリアである。当時、河川環境に配慮した川づくりの手法が手探りの中、当時の技術者が工夫を凝らして取り組んだものと考えられる。現在では、伊自良川の自然環境の回復も進み、ゲンジボタルが飛び交う豊かな自然が広がる河川環境が創造されている。

<審査委員とりまとめコメント>

「環境に配慮した川づくりの手法が手探りの中、当時の技術者が工夫を凝らして取り組んだ」結果、改修後にゲンジボタルの飛び交う情景が再現されたことを表した良い写真です。例えば、可能な限り土羽部分を残したなど、具体的な意図と工夫の説明があれば申し分なかったところです。

④



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	清水川沿いの木陰のあるこみち
撮影場所	岐阜県岐阜市加納天神町
撮影日	令和2年4月25日
応募者コメント	清水川沿いのこみちには、両側に木が植えられており木陰ができています。 また、こみちは清水川に沿って蛇行し、舗装の材質も工夫されています。緑が多く、歩きたくなる心地良い空間になっています。

<審査委員とりまとめコメント>

都市の川沿いの一角に残されていた貴重な空間が公園として整備された場所であって、桜などが無造作に生えているようであり、舗装も工夫されていますので、一見森の中の散歩を思わせますが、やや殺風景で側に水辺が見えていると一段と良くなったのではないかと思います。

⑤



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	苔むす神社
撮影場所	岐阜県美濃市乙狩（瀧神社）
撮影日	令和2年8月1日
応募者コメント	まるでジブリ映画に出てくるような神秘的なたたずまいです。鳥居や灯籠や参道に苔が付き、自然と一体になっています。私が訪れた日は、地元の方が草刈りをされていました。適正な管理によって自然との共生が保たれています。

<審査委員とりまとめコメント>

歴史深い高賀六社の一つとして地域の人々に崇められ維持管理されてきた瀧神社の佇まいを捉えた雰囲気のある写真ですが、自然条件に適った建造物の立地や「適正な管理」の内容が伝わってこなければ、「自然との共生が保たれています」とは言い難いのではないのでしょうか。

⑥



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	自然環境を保全するeco工法
撮影場所	岐阜県郡上市八幡町有穂地内
撮影日	令和2年9月8日
応募者コメント	急斜面における樹木を伐採せず、そのまま生かしたのり面保護工法として、ノンフレーム工法を採用し10年経過した事例下層植生もあり、健全な森林になりました。

<審査委員とりまとめコメント>

樹木の皆伐や切土・法面整形、植生工を伴わず、既存植生を活かして景観や環境を保全し、コスト縮減も図れるノンフレームの斜面安定工の好例といえますが、施工状態に焦点を合わせると斜面の全体状況が捉え難くなり、写真として地味になるきらいのあるのが残念です。

7



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	棚田の原風景
撮影場所	揖斐川町春日美束
撮影日	令和元年9月23日
応募者コメント	「貝原棚田」は旧春日村の山あい広がる3.5haの農地で、「ぎふ棚田21選」にも選定されています。美しい景観、様々な動植物が息づく農地であり、水源涵養や洪水防止の役割も果たす貴重な地域資源として、「貝原棚田保存会」により保全管理されています。

<審査委員とりまとめコメント>

圃場の維持管理と「水源涵養や洪水防止の役割」はときに相反しますが、地形に即して石垣や粘性土で造成されてきた棚田は、景観ばかりではなく地域の暮らしに食料供給は元より地盤安定にも大きく寄与してきました。より規模感があって具体的な保存活動を感じられるとなお良かったのですが。

⑧



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	耕作放棄地の再生
撮影場所	揖斐川町春日川合
撮影日	令和元年11月11日
応募者コメント	旧春日村の伊吹山の裾野に広がる豊かな農地であるが、農家の後継者不足により近年荒廃化が進んでいます。先人たちが守りつないできた貴重な農地を復興させるために、行政と地域が一体となっていこう「農地イキイキ再生週間」により耕作放棄地の再生に取り組んでいます。

<審査委員とりまとめコメント>

棚田か谷津田か微妙で、織がなければ遺跡の発掘作業にも見えますが、耕作放棄地の荒地化を防いで農地を再生し、農業を守る地域の皆様の活動は急激な洪水流出を抑制するクッション的役割の向上も期待されます貴重なご努力ですので、より具体的な作業内容が窺えると大変良かったです。

9



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	河川公園「とみぱーく」
撮影場所	川浦川(加茂郡富加町滝田地内)
撮影日	令和2年8月30日
応募者コメント	令和2年3月に竣工した河川公園「とみぱーく」で川遊びをしている風景です。 川に入りやすくするために、緩勾配の河川を整備し、川沿いに自生していた樹木を伐採するのではなく日陰として利用できるよう残しました。

<審査委員とりまとめコメント>

緩傾斜護岸整備の状況など、もう少し事業内容の伝わるアングルが望ましいですが、元の自然を残し安心して遊べる環境づくりによる、自然性にも親水性にも富んだ川の写真で、親子たちの配置も季節感も素晴らしく、気持ち良さそうな情景に自然との共生を感じることができます。

10

修繕前



修繕後



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	田村頭首工魚道
撮影場所	大垣市上石津町前ヶ瀬地内（牧田川）
撮影日	令和2年9月14日
応募者コメント	出水時の揚圧力で隔壁が破損しており、隔壁部の水の流れが乱れ魚類が遡上できない状態だった。破損部分を現場打ちコンクリートで補修することとし、既設コンクリートとの一体化や隔壁頂部は元の形状に類似させるよう工夫した。撮影時には魚道内で魚類を見かけることはなかったが、以前から遡上が見られたので、多くの魚が遡上してくれることを期待する。
<審査委員とりまとめコメント> 河川生態系にとって機能保持が重要な魚道の中には損傷と補修を繰り返しているものもあって、簡便有効な修繕方法が模索されています。写真はその状況を表していますが、修繕による改良のポイントが分かり難く、修繕前後の画像の遠近・画角の統一が望まれます。修繕後は水の流れも安定している様子で、魚道効果の向上が期待できます。	

11

修繕前



修繕後



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	霜之下頭首工魚道
撮影場所	大垣市上石津町上原地内（牧田川）
撮影日	令和2年9月14日
応募者コメント	出水時の転石による衝撃や摩耗により、側壁が破損し魚道内の水の流れが無い状態だった。側壁を従前より厚くし、また最上流の側壁には堰側に傾斜したスロープを設け、洪水が直接魚道にあたらないよう工夫した。修繕後、数回の出水があったが、側壁の損傷や土砂の堆積が生じておらず、また、写真撮影時には、魚道プール内に稚魚も見られた。多くの魚が遡上してくれることを期待する。
＜審査委員とりまとめコメント＞	
転石による損傷で機能が著しく低下していた魚道の修復例で、わずかな修繕で魚道内の落差が低減され、明らかにスムーズで綺麗な流れとなって遡上しやすくなっています。修繕前後の違いの分かる写真ですが、魚類の遡上状況などの効果を伝える工夫も考えて頂ければと思います。	



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	親子がふれ合う小駄良川
撮影場所	一級河川小駄良川（郡上市八幡町初音）
撮影日	令和2年8月29日
応募者コメント	小駄良川は、中小河川ながら溪畔林が多く周辺の里山から川まで連続した緑の景観が創出されている。撮影位置は、河岸が緩勾配に整備され、人が近づきやすい自然な水辺環境となっており、子どもたちが安心して川と触れ合える遊び場となっている。
<審査委員とりまとめコメント> 可愛い写真ながら親子のポーズがややぎこちなく、折角「河岸が緩勾配に整備され、人が近づきやすい」ようにされた形跡を窺えないのは残念ですが、中山間地の河川の一断面で在りし日の里地里山を想わせる素晴らしい川、素晴らしい水辺景観の写真です。	

⑬

H24完成直後



R2 完成後9年経過



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	自然な水辺環境が回復した鬼谷川
撮影場所	一級河川鬼谷川（郡上市和良町三庫）
撮影日	令和2年5月12日
応募者コメント	平成23年出水による被災箇所。復旧工法の検討にあたり、現地の流速からカゴマット護岸を採用。現地発生を表土を流用し、カゴマットに覆土を行い、植生の回復を促した。当地は、特別天然記念物オオサンショウウオを含む多様な生物の生息地であり、現在、周辺の植物や樹木と共に自然の水際環境が回復している。
＜審査委員とりまとめコメント＞ 「特別天然記念物オオサンショウウオ」が昼間隠れられる空隙は籠マットでは無理ですし、河床が平坦にされたため現在でも深みは見られず、施工直後の川幅全体写真等、撮影位置、画角も同様ではないですが、覆土による河岸緑化の効果が確認でき、景観にも調和した見栄えのする写真です。	

14



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト

作品タイトル	何が居てるか！
撮影場所	(岐阜県管理河川：桂川) 揖斐郡揖斐川町三輪地内
撮影日	令和2年7月21日
応募者コメント	岐阜県（揖斐土木事務所）の河川改修に際し、護岸を自然石で施工し、また流量が平時の際は河川中央部のみとし、両岸にデッキを設けてある。 このデッキは歩行用インターロッキング張りであり、かつ随所に河川内へ降りる階段を設けたことにより、河川を単に危険な排水目的として分断することなく、人と自然の共生・融和・親和性を図ってある。 この夏のある日、河川内では水に入った小学生の嬌声がやまなかった。

<審査委員とりまとめコメント>

地域の中心市街地を流れる川として、水溜まりも雑草も抑えるインターロッキングを用いたテラスを河道内に設け、市民の近づきやすい学習の場ともなる親水性の高い環境を生み出しています。川づくりの基本ともいえる楽しい写真で、奥のビルの入った構図も人の配置も良く、きれいでまとまりがあって自然との共生が感じられます。